

第2節 歴史を継承し、文化を創造するまち

1 歴史環境

～豊かな歴史的遺産が大切に保全され、伝統的な文化が保存・継承されているまち

<基本計画の目標>

世界に誇れる貴重な歴史的遺産の保存を図るとともに、整備・活用を進めていきます。
先人から営々と築かれてきた伝統芸能・工芸などの保存・継承に努めます。
歴史と文化の伝統に裏打ちされた鎌倉らしさを継承し発展させるため、市民や世界に向けて情報を発信します。
豊かな歴史的遺産を守り後世に伝えるため、引き続き、世界遺産登録推薦をめざします。

<目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

市民満足度	当初値	H18 実績	H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 目標値	H22 実績	H23 実績	H27 目標値
「鎌倉市は、豊かな歴史的遺産が大切に保全されるとともに、伝統的な文化が保存・継承されているまち」と感じている市民の割合	83.7%	83.4%	84.2%	83.0%	86.2%	85.0%	86.3%	82.1%	85.0%

<6年間の取組の評価>

【世界遺産登録推進担当】

「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録においては、文化庁と4縣市世界遺産登録推進委員会の協働により推薦書(案)を作成、国からユネスコ世界遺産センターへ提出し、「世界遺産登録推薦」という課題を達成しました。

しかし、市民意識調査の自由記入意見欄には、依然として世界遺産登録の早期実現に否定的な意見も見受けられます。今後は、多くの市民の方々に理解を深めていただき、賛同を得られるよう、周知・啓発活動により一層取り組んでいくことが必要と考えています。

【市民活動部】

平成21年度に「鎌倉彫」が地域団体商標として登録されるなど、伝統的工芸品産業の振興への取組が一定の評価を得たものと考えます。

【文化財部】

「豊かな歴史的遺産が大切に保全されるとともに、伝統的な文化が保存・継承されているまち」の実現に向けて、史跡の公有地化や整備、発掘調査等の実施に取り組んできました。

特に史跡永福寺跡は、環境整備工事が始まり、史跡(歴史)公園の実現に向けて整備が進んでいます。発掘調査体制の整備・充実については、検討中であり、具体的な方策を決定していく必要があります。

<今後の方向性>

【世界遺産登録推進担当】

世界遺産ガイダンス施設を開設することにより、市民等に鎌倉の歴史的遺産の価値をさらに理解していただきたいと考えています。このことにより、平成23年度に一時的に下がった「鎌倉市は、豊かな歴史的遺産が大切に保全されるとともに、伝統的な文化が保存・継承されているまち」という市民満足度を上昇させていきたいと考えています。

【市民活動部】

伝統的工芸品などの技術の伝承と地場産業としての振興を図ります。

【文化財部】

- ・文化財の保存・活用・修復・継承には一定の費用を要することから、可能な限り国・県の補助金等を活用していくことにします。
- ・永福寺跡の環境整備については、既に工事に着手しており、今後は、整備後の管理体制等についての検討を進めます。
- ・発掘調査体制の強化については、埋蔵文化財センターの設置に向けて検討を進めます。

鎌倉市民評価委員会の評価

《この分野の6年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見》

- ・歴史に親しんでいる市民の割合が多く、世界遺産登録に向けた地道な活動も行われて、市民満足度が常に80%台後半を維持しており、市民の意識の高さが伺える。
- ・世界遺産登録は、平成4年に国の暫定リストに載ってから20年経ったが、市が登録作業を進めるとともに、4県市で協働することで、国からユネスコ世界遺産センターへ推薦書が提出され、イコモスの現地視察を受けるまでに至り、実現に向けて進展した。長期に亘って努力を重ね「世界遺産登録推進」という段階までに漕ぎ着けられたことを評価する。
- ・歴史的遺産の保全を着実に進めている。目標指標は高いレベルを維持しており、観光客だけでなく市民も歴史を楽しんでいる。史跡を訪れ歴史に親しんでいる市民も多く、毎年文化財の指定件数も多い。歴史環境を守り、継承していくことが世界遺産をめざす鎌倉市の重要なミッションで、保存地区の拡大、文化財の保護など、きめ細かく実施しており評価できる。
- ・世界遺産登録推進事業をさらに具体的な施策としてとらえ、他部署との連携など次の段階へ進む必要がある。
- ・世界遺産登録に向けた地道な取組や予算に応じた文化財の保存、修復等については評価できるが、鎌倉彫に対する支援等他の取組については、成果が見てとれない。
- ・20年にわたる世界遺産の登録に向けた活動は大いに評価できる。このことにより緑、神社仏閣、景観を徐々に確立できた。

評価の内訳 (委員数)						⇒	評価委員会の評価
◎	5	○	3	△	0		◎

《将来のまちづくりの展望に向けたこの分野に関する意見》

- ・市民からの理解が不十分な理由として関連部局との連携が不十分であることなどが考えられる。各部局の壁を取り除き連携してほしい。
- ・世界遺産に登録後の指定地域やバッファゾーンについて、どの様に管理されていくのか等が明確にされていないため、市民へのメリット、デメリットを含めてそれらを明確するとともに、十分市民に説明し、理解を得ながら事業を実施していただきたい。
- ・世界遺産の登録により、これまでの課題の他に、新たな課題が発生する可能性も考えられる。そのためにも、優先順位を決めて、経費を効率よく使用できる工夫が望まれる。
- ・世界遺産登録が成功し、鎌倉が世界に誇るまちとして、行政と市民が一体となって歴史的遺産を保全できるようになるなど、諸問題に対応したい。
- ・世界遺産登録も射程に入れつつ、これからのまちづくりの中で歴史的遺産、文化的遺産をどう保全し、整備を図っていくかが課題である。
- ・歴史的遺産と自然環境の保全は、行政・市民の理解と協力に負うところが大きいが、寺社の”はたらき”はそれ以上のものがある。双方の協力体制が一層望まれる。

《この分野に関する総括意見》

- ・鎌倉の歴史は、市のアイデンティティであるとともに、観光資源であり、産業振興、道路交通等の分野とも密接な調整を図りつつ進めて行く必要がある。
- ・鎌倉市民だからこそ、この歴史環境の担い手で、自分のまちへの誇りを育て、市民が守っていける環境となるような市民への教育も今後続けなければならない。
- ・史跡買収事業は財政面から考えて、拡大するのは難しいのではないか。所有した史跡の保全・継承もあるので、経費の見直しが必要と感じる。
- ・みどりと並び鎌倉市の特徴的な分野であるため、新しい基本計画の中のひとつの柱と位置づけて今後も力を入れてほしい。
- ・鎌倉彫に関する支援については、「産業振興」の部門を中心に行うべきである。また、各指標についても事業との関連性や具体性が乏しいことから、見直す必要がある。